

安全登山シリーズ(7)

安全登山シリーズの7回目は『地図の読み方』について勉強しましょう。

安全登山シリーズの3回目で山岳事故の原因の1番目は転倒に起因するもので40%、2番目は道迷いで37%と書きました。転倒防止については3回目で触れました。

今回は道迷いの防止、即ち『地図の読み方』=読図について考えたいと思います。

最初に基礎編として地図記号と磁石の使い方を勉強しましょう。

一般に登山で利用できる地図には2種類あります。昭文社などが発行している登山地図と国土地理院が発行している2.5万分の1の地形図です。

前者は登山コースを主体に書かれたもので、縮尺は5万分の1程度が多く六甲・京都北山・比良など主要な山域で発行されています。等高線は20m間隔で読みにくいです。

後者は高度10m単位の等高線で構成された地形図で全国をカバーしています。現在では無料でダウンロードして利用できます。

登山で使用するのは地形図の方で、登山地図は参考資料として利用するのが普通です。

地図(ここでは地形図のこと)を使う目的は『現在位置の確認』です。

現在位置を知るためには地図と磁石を使います。登山では高度計も役立ちます。

地図を読むためには地図に書かれている『記号』の意味を知らねばなりません。

次ページに宇治平等院周辺の地図と地図記号一覧表を載せました。

この地図は宇治のスタンプラリー領域をカバーしています。歩かれた方も多いと思います。時間をかけて丁寧に見ていただくと、いろんな情報が得られます。

もう一つ重要なことがあります。

地図は北を上にして書かれています。磁石のN極も略北を示しますが真北ではありません。京都周辺では約7度西へ振れています。この磁石が示す北の方向を磁北線と言います。

国土地理院発行の1:25000地形図(宇治)には磁針方位は西偏約7°0'となっています。次ページの地図にはこの磁北線も青線で書きました。

ここで現在位置を確認する方法を考えてみましょう。

磁石のN極の方向を地図の磁北線の方向に合わせて、地図を正しい方向にします。

次に確かな目標物を見つけると現在位置の方向が分かります。目標物が二つあれば、二つの方向が得られ、その交点が現在位置となります。

登山で使う磁石には回転盤があり磁北と目標物の角度を固定できるようになっています。

最終回となる次回の応用編では地図と磁石を使って歩く方法を紹介いたします。



